

ともろう通信



No.25

2019年4月発行

ともろう
共朗生 — 共に朗らかに生きていきたい！

★ともろう通信は、NPO 法人男女共同参画こしがやともろうの機関誌です。

事業：①男女共同参画関係施設受託事業②男女共同参画の推進を担う人材養成事業
③情報提供、調査研究事業④自立支援・相談事業⑤子どものための自立支援事業



新年度に向けて

春爛漫の4月6日（土）、越谷市人権・男女共同参画課、越谷市男女共同参画支援センター「ほっと越谷」の職員、登録団体、指定管理者「認定非営利活動法人男女共同参画こしがやともろう」が一堂に会し、第1回「ほっと越谷」登録団体会議が開催されました。若い世代の方たちの出席も目立ち、会議はとても和やかな雰囲気の中進み、幸先よいスタートとなりました。

さて、平成30年、「認定特定非営利活動法人男女共同こしがやともろう」は設立10周年を迎えることが出来ました。12月の記念式典・講演会には会員・賛助会員の皆様には多数ご出席いただきありがとうございました。

男女共同参画関係施設受託事業の運営も安定し、昨年度は「越谷市ジェンダー統計パネル」14枚を作成しました。今後、様々なところでご活用いただければと思います。

自主事業では各地区センターへ講師を派遣、地域に出向いて男女共同参画への理解を深める場を広げてきました。

「こころとからだのサポートケア」事業・「ゆったりカフェ」では生きづらさを抱えた女性への支援を多面的に展開し、実践したことで本来の自分の力を取り戻し、失った自信を回復していくことにつなげることが出来、又、継続していくことの必要性を感じました。

「ともろうカフェ」では発生から8年過ぎた原発事故を風化させないために福島の人々の姿を追った映画「原発の町を追われて～避難民・双葉町の記録」の上映と監督トークを行いました。

ともろうの活動は、是非、ともろうのホームページをご覧頂きたいと思います。今年度の事業は、生きづらさを抱えた女性のサポート事業、ゆったりカフェ、ともろうカフェ等を予定しております。

今後とも会員の皆様のお力添えを頂き、より良い運営を進めていきたいと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。

認定NPO法人男女共同参画こしがやともろう 代表理事 駒崎美佐子

今年度の職員紹介

「ほっと越谷」「ともろう事務」

- ① 好きなこと
- ② 得意なこと
- ③ 今年したいこと

ほっと越谷職員

おおつか ちはる
大塚 千春

- ①友達と出かけること
- ②パソコン
- ③越谷近辺の知合い、友達を増やす。ママ友を作る

ほっと越谷職員

とよだ よしこ
豊田 淑子

- ①遺跡めぐり、気の置けない友人とおしゃべり
- ②得意ではないが、お菓子づくり
- ③新しいストレス解消法の探索、ものを持たない暮らし

ほっと越谷職員

まつおか みのり
松岡 年

- ① 温泉、旅行、読書
- ② 人見知りしない。パッチワーク(ただいまベッドカバー制作中)
- ③ 友だちとランチ 30回、劇団四季の「アラジン」を見に行く

ほっと越谷職員

みつや じゅんこ
三矢 純子

- ①手芸、ドラマ鑑賞、読書(コミック含む)
- ②リサイクルや材料費を抑えての物作り
- ③活動の生(ライブ)の現場に行く、観劇、講演会

ほっと越谷職員

あつかわ はるみ
厚川 晴美

- ①その時の気分心地いいところにいること(食べる、めぐる、愛でる、寝る)
- ②荷物の梱包
- ③refresh

ほっと越谷職員

しまづ みやこ
島津 美弥子

- ① 食べること、ねこを愛でること
- ② 暴走
- ③ 健康のために歩く

ほっと越谷職員

はっとり
服部 さとみ

- ①友達とお喋りランチ、ライブ
- ②お花を使ったインテリア小物やアクセサリ作り
- ③家の片付け

ほっと越谷職員

さくべ みちこ
作部 径子

- ①旅行、温泉、美食、国産ワイン飲みくらべ
- ②定時に帰る(家が遠いので)
- ③断捨離

ほっと越谷職員

こいけ ひろえ
小池 尋江

- ①浪費、お洋服を買うこと
- ②どんぶり勘定
- ③丁寧な暮らし…(笑)、心とからだのメンテナンス

ともろう事務員

てらしま まゆこ
寺島 万柚子

- ① 神社に行くこと
- ② 粘土細工
- ③ 登山

生きづらさを抱えた女性の支援事業 「ゆったりカフェ」報告

4月 認定NPO法人男女共同参画こしがやともろう 理事 坂本雅子

平成30年度新規事業として、4月から平成31年3月まで12回開催しました。

- ◎参加総数：63名
- ◎参加動機：ほっと越谷のチラシを見た。ホームページで知った。友人からの情報他。
- ◎参加しての感想：自分の話が静かな中でできた。黙って人の話を聴く体験が新鮮だった。話をし、話を聴くのが楽しかった。
- ◎これからの課題：どう周知していくか。

「ゆったりカフェ」は、新年度のともろう継続事業として、ひとりひとりを大切にして、安心安全な中で“話す” “聴く” 場を広げていきます。

女性のためのゆったりカフェ

～～話したり、聴いたり、聴いてもらったら、気持ちは軽くなる～～

女性の方どなたでも、ふらり、ぶらりとお越しください。「ゆったりカフェ」は、ひとりひとりを大切にして、安心安全の場となるよう、4つの約束をしています。

1. お互いを尊重する
2. 相手の話をよく聴く
3. 相手を非難しない
4. 発言しなくてもいい (RJ対話の会)

平成31年度・令和元年度

開催日（土曜日）：4/27、5/18、6/22、7/20、8/24、9/21、
10/26、11/30、12/21、1/25、2/22、3/28

開催時間：13:30～15:30

開催場所：ほっと越谷セミナールーム

参加費：100円（茶菓子代）

（予約制ではありません。自由にご参加ください）



担当理事：駒崎美佐子

荒井ひとみ

坂本雅子

連絡先：090-8441-0284

「ともろうカフェ」を開催しました

4月 認定NPO法人男女共同参画こしがやともろう 理事 山口洋子

～東日本大震災を忘れない～

「原発の町を追われて～避難民・双葉町の記録」三部作上映 堀切さとみ監督と鶴沼久江さんのトーク

ともろうでは、その時々地域課題を学び考える場として、年一回自主事業「ともろうカフェ」を開催しています。

災害が多発する今日、今回は前回2018年3月に続き、～東日本大震災を忘れない～をテーマに、加須市に避難してこられた福島県双葉町の人々を当初から撮り続けている、堀切さとみさんが制作した映画を上映しました。

福島県から避難して来られた方、福島県出身の方もおり、堀切さとみさんと鶴沼久江さんのトークでは会場から共感の声上がり、監督に第4部作品づくりへの期待が寄せられました。アンケートでは映像とともに、鶴沼さんから原発事故による避難生活など生の声・現実を聞くことが出来て良かった、との感想が沢山寄せられました。

日 時・会 場 2019年3月24日(土)
13:30～16:30(ほっと越谷)

- 黙 禱
- 「原発の町を追われて～避難民・双葉町の記録」
三部作(102分)上映

第1部「原発の町を追われて」2012年/49分
第2部「2年目の双葉町」2013年/23分
第3部「ある牛飼いの記録」2017年/30分
ひとりの牛飼い、鶴沼久江さんの姿を追った。

- 堀切さとみさんと鶴沼久江さんのトーク、質疑応答



堀切さとみさん

さいたま市在住。さいたま市の給食調理員。2012年に「原発の町を追われて～避難民・双葉町の記録」、2013年7月「続・原発の町を追われて～避難民・双葉町の記録」を発表。

2017年に「ある牛飼いの記録」を発表し、3部作にまとめた。

公式サイト「原発の町を追われて～避難民・双葉町の記録」<http://genpatufutaba.com/>

鶴沼久江さん

双葉町から埼玉県に避難し、現在は久喜市で農業を営んでいる。

* 堀切さとみさんと鶴沼久江さんのトーク・質疑応答 *

(堀切) 三部作それぞれ何を伝えたかったのか。

「原発避難民」という人たちと出会い、この人たちのことを記録したかったのです。

原発に恩恵を受けた町の人たちが、どのような思いで、埼玉県に来て、騎西高校に避難しているのか。原発を信じて原発と共に暮らした町民の心境は複雑だろうと思いました。とんでもない事が起こった、何もかも失ったこと、いつ帰れるか、あてもない中で、騎西に来てくれた、逃げられて良かったと思いつつながら、避難所に通った。多くの支援者やボランティアとの交流があり、避難民たちはそれぞれの思いを語り始めた。1部作のカメラを回した。

しかし、町には帰れず、仕事もなく一日いるだけの生活に、何を話してもしょうがない、という雰囲気、誰も話してくれなくなったこともあった。何日もただ行くだけで帰って来る日々があった。『なぜ福島なのに、埼玉にいるのか。どうしたら良いのかわからない。』気持ちはわかった。

3ヶ月め、双葉の人たちは、祭りの準備に太鼓をたたき始めた。双葉の人の意気が感じられた。



2部作となった。

その後、騎西高校が閉鎖されて、どうしようかと思っていたところで、鶴沼さんに出逢った。

どのようなことがあっても、どこにいても主張すること、そして記録することであると思った。

3部作は騎西高校の近くで農業を営んでいる鶴沼さんの生活記録である。



(鶴沼) 避難生活、現在の暮らしや避難指示解除後の帰還について

福島第一原発のすぐ近くで50頭の牛を飼っていました。殺処分は拒否したが、牛たちをつれて避難することは出来ず、かわりに野菜作りを始めました。

避難所の生活が長くなると、毎日、毎食のお弁当が辛かった。自炊が出来ない。せめて煮炊きが出来たら、野菜を作って食べてもらいたいと思った。加須市の農地を借りて野菜を作り、食べる暇も惜しんで働いた。福島への偏見は根強い。東京での復興支援イベントに出店したことがあるが、双葉町で作った野菜だと思われて買って貰えなかった。埼玉県の加須で作ったものだとすると「ふーん」と視線を背けて終わり。準備・時間の無駄、二度と行かない。

双葉の家は、そのままになっている。双葉町の侵入禁止地区に入ると門番がたっていて自分の家が見えるのに入れない。放射線量は下がったと言っても、場所により高いところもある。家は動物や野生化した動物たちに荒らされて手が付けられない。ガラスもシャッターも破って家に入ってしまう。人間が檻に入って、動物たちが自由になっている。

国の方針である除染は長い時間がかかる。農地の再生はむずかしく100馬力3台で引きはがしても汚染は土地深く浸透している。除染後に、新しい家を建てる気力がない。集合住宅といっても、町には病院もない。3時間かかって車を運転し確認したが、夫が亡くなって女一人、出来ることはない。

今は避難者であるが、出来る限り野菜を作って、みんなに食べてもらいたいと思っている

「辛いことがあっても悲しくても笑っていればいつか」と友人から言われそうするようにしている。

(質問) 今、双葉の町は、東電の原発はどのようになっているのでしょうか。

(鶴沼) トリチウム(三重水素)は地下深く浸透している。放射線量については数値をあげて安全というが、風が吹くとき、止まっているときでも違う。家の中でもその時の状況で違う。

(質問) 鉄道も復興しているようだが、現状はどうか。また、これからは。

(鶴沼) いわき、勿来など復興しているニュースも聞かれるが、双葉は町の形になっていない。帰りたい人はどうぞという政策だと思う。

(質問) 自分も楢葉から避難してきているので共感するところが多い。
未だ行方のわからない方もいるが震災関連死する人が増えている。
避難所が閉鎖されて以降、状況はどのように進んだのか。

(鶴沼) 避難所や仮設住宅での生活などの負担、様々な要因での災害関連死の問題も深刻である。



(質問) 浜通りの鉄道の開通は復興の足掛かりとなるのではないか。

(鶴沼) 鉄道は繋がったが、双葉の町に何人が乗り降りするか、町がないのだから。

(質問) 原発の再稼働が進んでいるが、総理大臣に望むとしたら何を望みますか。

(鶴沼) 総理大臣には、双葉の私の家に来て泊まっていたきたい。そうしたら、私が双葉の畑で作った野菜で料理し、ご飯を作ります。

(質問) 堀切監督、4部作は作成する予定ですか。



(堀切) 今後の活動

原発の問題は希望が見えてこない。頑張っている人もいるが、それでよしとするわけにはいかないし、避難者の人たちの自己責任にしてはならない。責任ある人が責任を取っていない。同じことを繰り返さないために、関わり続けて、記録をして行きたい

(鶴沼) 今後の活動

私に出来ることがあればやりたい。農業を続けて、双葉の皆さんに、少しでも良い野菜を届けたい。

*** 参加された皆さまから沢山の感想をいただきました。ありがとうございました。 ***

- ・映画で避難者の苦勞と希望を持って頑張っていること知った。
- ・テレビの映像には表れない大変な苦勞が感じられました。
- ・3部は活力のある方の活動に希望をみたとともに周囲との間におこるジレンマ、訴えるものがありました。監督、鶴沼さんのトークが聞けて本当に良かったです。
- ・古里の思い出・盆踊りは良かったです。
- ・お二人ともお話もお人柄もかざり気のない誠実さが感じられて、お話、映像の内容がとてもストレートに体に入ってきました。
- ・鶴沼さんの強い生き方には感動しました。どっしりと受け留め、明るく生きて来られた事を尊敬します。
- ・いつ自分の身に振かかってくるかもと思うと、又、改めて真剣に考え乗り切らなくてはと強く感じます。
- ・原発事故を風化させてはいけないことを再認識しました。
- ・8年たった今、「廃炉」を決めなければ本物の復興などありえない。
- ・自分も避難しているので共感する。
- ・避難した人たちの地区の被災度は差はありますが、故郷を離れての暮らしは一日とて地元で根本がある限り忘れることが出来ません。頑張ると言うことは大変です。
鶴沼久江さんのお話を聞く機会に恵まれ、幸いでした。身体に気をつけてください。
- ・避難してきている自分には同感、同感の思いが多くて、少し救われた半日になりました。
駅の話、動物被害、皆々、その通りなのです。
- ・避難して今現在、埼玉県に住んでいます。さいたまのことをもっと知りたいし、これからも付き合っていければ良いと思っています!!
- ・避難の実際について無知であることを再認識しました。後々まで伝えてゆくべき映画であると思いました。
- ・このような映画は学校現場などで見ていただき、若い人たちにもっと知ってほしいと思いました。



CSW63(第 63 回 国連女性の地位委員会) に出席して

4月 認定NPO法人男女共同参画こしがやともろう 理事 青木玲子

今年も、3月9日、慌ただしくニューヨークに旅立ちました。テレビでは、アメリカ各地の吹雪の報道もあり、寒さ対策はしっかり整えましたが、日陰に雪もあり、なにせ「ほっぺた」にあたる風が冷たく、これは10日間、帰国するまで続きました。羽田で外に出た時は、なんだか優しい、柔らかい風が当たって、日本の春だとほっとしました。

今年は、3月前半に、大沢真理さんのような日本のジェンダー課題解決に大きく貢献をした世代の先生方が、定年退職となり、最終講義のご案内がありました。まだまだご活躍されるでしょうが、それでも世代交代とあんなに頑張ってきたのに、いったい「なぜ進まないのか、男女平等」と言う思いも強く抱きつつのCSW63への参加でした。

外は寒かったけれど、国連の中は、熱気で包まれていました。



CSW63(3月13日～22日)のテーマは、「ジェンダー平等と女性と少女のエンパワーメントのための社会保障システム、公共サービス並びに持続可能なインフラのアクセス」でした。

この長いテーマは、討論すべき課題も多く、LGBT、移民女性、イスタンブール条約、ダイバシティーの視点に立った社会保障制度、安全保障などの先進的な政策や取り組み事例が、政府間会議でも、また各国が国連本部内で提供するサイドイベントや国連外の施設で開催されるNGO主催の平行イベントでも展開されました。このNGO主催のイベントは、CSW63期間中に300以上開催されます。

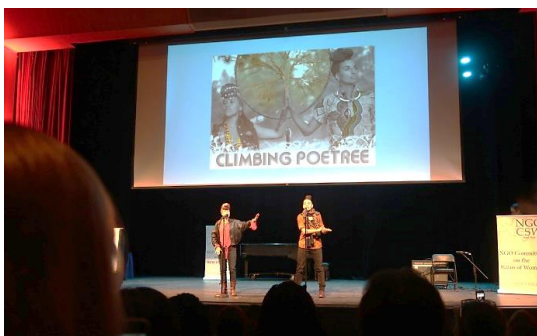
私の所属するJAWW(日本女性監視機構)も他の二つのNGOとともに国連日本政府代表部との共催で、高齢者女性の自立をテーマで、海外からスピーカーも招いたサイドイベントを開催しました。このサイドイベントのコーディネータをされたのが、文教大学人間科学部の布柴靖枝教授でした。



CSW63 の報告は、4 月 25 日、内閣府主催の「聞く会」で情報提供されます(インターネットで申し込み、どなたも参加可)。CSW63 の会議の合意結論もすでに発表されていますが、公式会議、サイドイベントの様子は、UN Web-TV で確認することができます。

全体で世界各国から 2000 人以上の参加で、どの会議も参加者で溢れていました。日本からは、約 60 名が参加しましたが、若い世代の参加も増えて、国連日本政府代表部での説明会でも、彼女たちの積極的発言は高く評価されました。そんな若い世代の物おじしない流暢な英語の発言を聞きながら、頼もしく思いましたが、今、若い世代が登場出来るようになった場を持続した長い歴史上の女性たちの活動も思いました。

次回CSW64は、Beijing+25 の記念大会でもあり、世界の女性たちの意見や力を結集するプロセスについても多くの提案がありました。北京会議から25年も立ったのかと思う世代と、まだ生まれていませんでしたと言う世代のお互いの力を活かしたバトンタッチをして、北京会議の節目を乗り越えられたらと思います。





こしがやともろうからのお知らせ

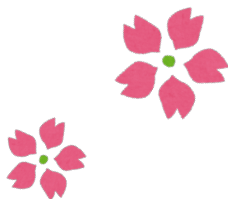


平成 31 年度・令和元年度総会



◇ 日時 5月27日(月) 午前 10時より

◇ 場所 越谷市市民活動支援センター



詳細は追ってご案内致します



★正・賛助会員になって活動を支えてください！

正会員 年額 10,000円 賛助会員 年額 一口 2,000円

郵便振替口座 00120-1-447817

加入者名 NPO法人男女共同参画 こしがやともろう

●寄附のみも受け付けております

男女共同参画こしがやともろうは認定NPO法人です。ご寄付は税金の控除を受けることができます。

(発行 ・ お問い合わせ)

認定特定非営利活動法人男女共同参画こしがやともろう
〒343-0026 埼玉県越谷市北越谷 2-21-8

電話	080 - 3246 - 3540
Eメール	tomorou@hot-koshigaya.jp
ウェブサイト	https://koshigaya-tomorou.or.jp/